


特定非営利活動法人 日本免疫学会
2023 年度 後期 Tadamitsu Kishimoto International Travel Award
研究発表報告書

申請者氏名	坂井 由葵	会員番号	0036987	
申請者の所属・職名	大阪大学大学院 生命機能研究科 博士課程 5 年 微生物病研究所 分子免疫制御分野			
出席会議名	13th International CD1-MR1 Conference			
発表論文タイトル	Identification of human T cells recognizing a mycobacterial adjuvant presented by CD1b			

実施結果:

この度は Tadamitsu Kishimoto International Travel Award に採択いただき、誠にありがとうございました。2024 年 2 月 26 日-29 日にオーストラリア Tasmania 州 Hobart で開催された 13th International CD1-MR1 Conference に参加し、上記演題名にて口頭発表をさせていただきました。本学会は、CD1 または MR1 拘束性の自然免疫型 T 細胞研究の権威や気鋭の研究者が集結し、朝から晩まで活発な交流をする会で、普段からよく目にして論文の著者らと直接議論できる大変貴重な機会でした。学会の構成は、主に1日目が CD1 拘束性 T 細胞のリガンド同定や認識機構に関する研究、2, 3 日が MR1 拘束性の MAIT 細胞の機能や分化に関する研究、4 日が自然免疫型 T 細胞の免疫療法への応用に関する研究で、私は CD1b 拘束性 T 細胞の新規抗原を同定した内容を 1 日目に報告させていただきました。発表後には、CD1b-reactive T 細胞研究の第一人者である Harvard 大学の Branch Moody 先生からもお褒めの言葉をいただき、自分のやっている研究の位置付けを認識できたとともに、自信にも繋がりました。ポスターセッションの折には、分野の近い先生方や学生と、テトラマー染色やシングルセル解析に関して技術的なディスカッションをすることができ、大変参考になりました。一方で、発表に関しては海外の学生の実力が圧倒的で、プレゼンテーション力を身につける必要性を痛感しました。今後の研究については、直近の共同研究の話を Columbia 大学の Annemieke de Jong 先生と進められた他、TCR の構造解析の権威である Monash 大学の Jamie Rosssjohn 先生に興味を持っていただくことができました。また、自身の興味として、iPS NKT 細胞や他家 NKT 細胞治療法が臨床で有効性を示している発表に感銘を受け、CD1b 拘束性 T 細胞についても、まずは vivo で抗酸菌感染に対する有効性を見ていきたいと感じました。次回本会は米国開催の予定ですが、今回知り合えた方々に再会して、さらに新たな報告ができるよう、今後とも研究を進めていければと思います。

末筆となりましたが、本 Award 選考委員の先生方、推薦いただきました山崎晶教授、研究にご協力いただいている先生方、そして日々お世話になっている研究室の皆様に深く感謝申し上げます。